

令和7年度 第6回 教育委員会

日時 令和7年9月8日（月） 15:30～16:30

場所 綾町公民館・大会議室

出席者	教育委員	柿田 美香	教育長	高松 公俊
	教育委員	横山 横子	教育総務課長	野村 敏幸
	教育委員	中神 克寿	社会教育課長	佐藤 光久(欠)
	教育委員	山口 昇(欠)	教育総務課主幹 社会教育課主幹 教育総務課係長 社会教育課係長 教育相談員 SSW	馬場 勇次 麻生 昌秀(欠) 森本 亜紀 井上 隆広 南正覚 雅士 松尾 容子
傍聴者	0名		議事録	古高 望

○開会の挨拶

○教育長挨拶

(教育長)

市町村教育委員会研修大会（長崎県大村市）について、講師の発言「わからない子にわかるように教えるのが指導者の仕事」という言葉や目標が明確に立っていたことなど、研修大会で印象に残っていることについて触れ挨拶を行った。

○教育長事務報告

(教育総務課 係長)

行事経過報告並びに行事計画について、資料に沿って説明を行った。

(社会教育課 係長)

教育総務課と同様、行事経過報告並びに行事計画について、資料に沿って説明を行った。

○協議事項、報告等

(教育総務課 係長)

8月21日～22日に行われた九州地区市町村教育委員会研修大会（長崎県大村市）について、参加された委員さんよりご感想や意見があれば伺いたい。

(教育委員)

講師の方の「指導者が笑顔でいること、指導者自身が感動する体験をすることが大切」と

いう言葉が印象に残っている。綾町の先生方にもそういった経験を与えることが必要になるが、ここでは「研修」のようにあらかじめ用意されているものではなく、本人が心から興味をもち感動する体験をすることが大切になると考える。また、視察をした諫早市の「子どもの城」では「ぶつかりながら守り方を学ぶところ」を文言にしており、最初からぶつかることを否定するのではなく、ぶつかってからどうするのかその子自身に考えさせる場所としているのが素敵だと感じた。

(教育委員)

「子供の居場所」が確保されていた。親子が主体となって活動しており、職員の「それはだめです、それはやめてください」などの禁止語・命令・指示もなく、子供たちものびのびと過ごしているようにみえた。教えるだけの時代は終わり今は子供たちの学びを「支える」時代がきているということを今回の研修を通して感じた。

(教育委員)

研修先の職員さんがおっしゃっていることは「当たり前」のことではあったが、生きていく中でその当たり前がなかなかできず難しいということを改めて考えさせられた。

○その他

(SSW)

小・中学校の児童生徒等の状況について。

夏休み前に、養護教諭の先生よりアンケートを実施していただきそのアンケートで2件ほど気になる内容のものがあったこと、悩みを持つ生徒がいたことの報告、共有を行った。

(教育相談員)

夏休み中、大きな事故やけが等はなかったことを報告。また、生徒指導の人数増減について説明を行った。

(教育総務課 主幹)

幼保小中教育研修会について。

参加された職員の方(小学校)から「やってみたいという子どもの思い、学びの芽を大事にして幼保小の連携をこれからも図っていきたい」という研修への肯定的な感想があった。子供たちが過ごしやすい学校というのは、先生方にとっても過ごしやすい学校ということである。

(教育委員)

研修会に参加した職員の方の感想について、こういった言葉は何回も見聞きしてきたので、今後この感想を基に具体的にどう実践し、その結果どう子ども達が変化したのかまでを示すなど、感想で終わるのではなく実践することが大切だと考える。

(教育長)

研修を受けた際は「なるほど」と受け止める事ができるが、実際やってみると難しいとい

うところもでてくると思うので、実践報告の場を設けるなどの工夫をしていけたらと感じている。

(教育委員)

このような基礎的な学習を受けた後、教育総務課主幹からの助言があることで、理解しやすくなっているのではないかと思う。

(教育総務課 主幹)

生徒指導（学力向上、働き方改革）について。

学習アプリ「AI ドリル」が2つ体験版として1年間使用できるようになり、来年どちらにするべきか比較を行いながら使用していることを報告した。また、働き方改革について文部科学省からの働きかけを説明した。

(教育総務課 係長)

令和7年度宮崎地区教育委員意見交換、情報交換会についての説明。

○閉会